

引き続き電力異常の原因を調査するとともに、確実な停波に向けた運用を行っていくこととしている。

宇宙開発の現状報告

(平成 23 年 6 月 15 日(水) ~ 平成 23 年 6 月 28 日(火))

平成 23 年 6 月 15 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発に関する国内の動向

- 宇宙ステーション補給機「こうのとり」(HTV)の「電波功績賞総務大臣賞」の受賞について
6 月 10 日(金)に開催された(社)電波産業会による第 22 回電波功績賞表彰式において、HTV 近傍接近システム通信技術の開発により、JAXA 及び三菱電機(株)が「電波功績賞総務大臣賞」を受賞した。「こうのとり」において、データ中継衛星を経由する長距離通信とランデブー制御の超近距離通信を行うための近傍接近通信システムを開発し、その技術の一部が米国航空宇宙局にも採用されるなど、電波を有効に利用した宇宙通信システムの実用化に大きく貢献したとして受賞されている。
- 赤外線天文衛星「あかり」(ASTRO-F)の科学観測終了について
「あかり」は、5 月 24 日(火)に発生した電力異常による影響で、日陰と日照のたびに電源の ON と OFF を繰り返す状態となっていた。JAXA は、この影響により、その後、通信や姿勢制御等の衛星運用の制約が大きくなり、科学観測を再開することが困難な状態であるとの判断に至ったと、6 月 17 日(金)に発表した。今後は、

- 準天頂衛星初号機「みちびき」測位信号の提供開始について
JAXA は、「みちびき」の測位信号(L4-C/A、L2C 1)の品質・信頼性が確認できたため、6 月 22 日(水)に L-1C/A、L2C 測位信号のアラートプラグを解除したと発表した。アラートプラグ(測位信号が利用できない状態を示すプラグ)の解除により、「みちびき」対応の GPS 受信機で、その測位信号を測位計算に利用することが可能になる。残りの測位信号(L5、L1C 2)についても品質・信頼性を確認した後、順次アラートプラグの解除を実施することとしている。
 - 1 現在 GPS から送信している測位信号との相互運用が可能な補完信号。
 - 2 GPS 近代化計画に基づく新たな測位信号との相互運用が可能な補完信号。

宇宙開発に関する海外の動向

- イランが衛星の打上げ実施を発表 【イラン】
国営イラン通信は、6 月 15 日(水)夕方(現地時間)、自国製のロケット「Safir」により、人工衛星「Rasad-1」を打ち上げたと発表した。
 - ・長征ロケット、航行測位衛星の打上げに成功【中】6 月 20 日(月)16 時 13 分(世界標準時、以下同じ)、中国は西昌衛星発射センターより、長征 3B ロケットを打ち上げ、チャイナ・サットコム社(中国衛星通信集団公司)の通信衛星「中星 10 号(Chinasat-10、Zhongxing-10)」の所定の軌道投入(静止トランスフ

ア-軌道)に成功した。

- プログレス、国際宇宙ステーション(ISS)とのドッキングに成功

【露】

6月21日(火)14時38分、バイコヌール宇宙基地からソユーズUロケットにより打ち上げられた、ISSへの補給物資を搭載したプログレス補給船は、6月23日(木)16時37分、ISSとのドッキングに成功した。

- ソユーズロケットによる通信衛星の打上げに成功

【露】

6月27日(月)16時00分、ロシアは、プレセツク射場より、ソユーズUロケットを打ち上げ、軍事衛星「コスモス2472(Kosmos-2472、Cosmos-2472)」の所定の軌道投入(低軌道)に成功した。

- 国際宇宙ステーション(ISS)へのスペースデブリ(宇宙ゴミ)の接近について

6月28日(火)12時8分頃、古川宇宙飛行士が長期滞在中のISSにスペースデブリ(宇宙ゴミ)が接近した。デブリの接近の判明が直前となり、衝突回避のためのISSの軌道変更の余裕が無かったため、ISSの運用手順に従い、古川宇宙飛行士含む滞在中の6人全員がソユーズ宇宙船2機に分かれて待避した。安全確認後、同日12時12分に搭乗員6名はISS船内に戻り、現在は通常運用に復帰している。